

メインシナリオ／サイド第5回  
『炎の慟哭 第1話』個別リアクション

『死んではダメだと……』

アーリー・オサードとの面会を終えて、外れの館から出てきたシャンティア・グティスマーレを、メイドのミーザ・ルマンダが待っていた。

ミーザはシャンティアの手を引いて、馬車に乗せてくれた。

メイドと話をするのも、苦手だったけれど……シャンティアは思い切ってミーザに話しかける。

「アーリ……えっと……アニサ？ ど、どんな感じの人……と……思いましたか？」

面会直前に、騎士からアーリーはアニサの名で、魔法制御訓練に参加していると説明を受けていた。訓練にはシャンティアも加わることができるそうだ。とはいえ、もちろん多くの人と一緒に訓練をするなんて、シャンティアには無理な話。

だから、訓練に参加しているというミーザに、アーリーの様子を尋ねてみた。

「アニサ……？ ……アーリー……火の魔法使い」

ミーザは少し考えた後、くすっと笑みを浮かべた。

「そういうことですか！ あの時の怖い女の方が、アニサさんなのですね。訓練の時は、全然違う印象ですよー。大人しそうで、あまり人と話すのは好きではないという印象で、影のある人だなんて思っていました」

「そう……ですか」

「お嬢様は、アーリーさんと何を話したのですか？」

騎士以外の誰かに、言わなければいけないような気がして。

シャンティアは目を合わさずに、ぽつりと話した。

「ア……アニサは、もう少ししたら、死ぬって。世界はいずれ滅びる、って言って、ました……」

「それは困りますよね」

ミーザはにっこり微笑みながら、こう続けた。

「火の、継承者の一族が滅んだら」

シャンティアは不思議そうに、ミーザを見た。

手記の話を、このメイドは知っているのだろうか。

「生きのびてもらう方法を、考えなければなりませんよね」

ミーザのそんな言葉に、シャンティアは自然と頭を縦に振っていた。

アーリーは死んではダメだと、思う……。

こちらのリアクションは以下のP Cに発行されています。  
シャンティア・グティスマーレ